

## 留学だより No.7 From MICHIGAN USA 2020.02

皆さま、こんにちは。

二月のミシガンは、思っていたより寒くありません。十一月ごろに異例の大雪が降り、年明けにはどんな寒さが待ち受けているのだろうと心配していたのですが、今の時期にしては例年よりもずっと暖かいです。一日のほとんどを屋内で過ごすうえ、気温が低くても晴れていて、寒さに苦勞することは無いです（夜は相変わらずマイナス 10℃程度ですが）。ホストやクラスメイトをはじめ、体調を崩している人もちらほら見受けられるようになり、体調には一層気をつけて過ごしたいと思います。



(左) Michigan State Capitol (州会議事堂) の中で記事を書いていました。

(右) Capitol の中で法案を吟味中。大量にある真面目な案の中には、雰囲気や和むような面白い案もありました。

二月中旬、Youth in Government の 3 泊 4 日の Early Conference (春季会議) に参加しました。学校ごとにランダムに Early Conference と Late Conference (三月中旬頃) の二つの日程に分けられるのですが、それでも秋にあった Fall Conference (秋季会議) よりもかなり大規模でした。ミシガン州の色々な地域から高校生が集まり、立法府・内閣・裁判所をはじめとする全 7 つの組織に分かれて模擬政治を行います。

全組織が集合する用のホテルを拠点に (なんと宿泊したホテルとは別の場所でした)、州会議事堂や州の上院下院・近くの law school など、各組織が実際の組織も使っている場所にて、ディベートやスピーチ、法案作成を進めていきます。

私は Press Corp といって、全組織の様子の記事をおこし、新聞を出版する部門に配属されました。記事の役割分担をしたら、前日から担当の組織のスケジュールを把握し計画を立て、各自で写真撮影・インタビューや取材を進め、15 時の締め切りまでに記事を書きます。そこから印刷・製本をして夜の全議員が集まる集会で一斉配布します。他にもプログラムの広報をしたり、プロモーションビデオを作成したりと幅広く活動しました。

各組織を飛び回って取材し、リアルな声を聴きまとめることで、たった四日間でもプログラムの全体像や参加している同世代の様子を垣間見ることが出来て、今年しか参加できない私にとってぴったりの素敵な組織だったな、と思います。

開会中の唯一の公式メディアとして、記事の意見が偏らないように、複数の人へのインタビューを何回も重ね、慎重に文を作っていきます。

写真が採用されたり書いた記事が載ったりすると甲斐があるのですが、何度も推敲して書いた部分がカットされていたり、ページ数の関係でまるまる記事が使われなかったり、と書く仕事の難しさを少し知ったような気がしました。

私達が面白いと記事にした法案が、新聞を通して他の組織からも注目され、群を抜いて圧倒的な支持で可決された時に、メディアの影響力の大きさを改めて感じました。



(左) 慎重に調査して心を込めて書いたので、どの記事もお気に入りです

(右) Sturgis High School Delegation のみんなと。

参加している人は皆、同じ高校生ながら努力家で、学ぶことが多くありました。そして、夕食後のゲームやダンスなど、楽しむときは思いっきり楽しむ姿が印象的でした。同じ州の様々な場所で、自分の夢に向かって全力で生きる同世代の存在を知り、良い経験になりました。

プログラムの最後に、来年度の重役になった他校の子に「来年の議会に来てくれたら間違いなくあなたに Press Corp の代表を任せるのに、本当にこの夏で帰っちゃうの？」と言われたことが、どうしても忘れられずに心に残っています。

本当に州のあちこちから集まったメンバーなので、次に再会できるのは果たしていつなのか、それとももう…。誰も確証なんてないけれど、それでも「また来年、ここで会おう」とだけ約束して、それぞれの故郷に帰っていく姿を見て、これが彼らの青春の形なのか、と胸が熱くなりました。

インタビューをする際には、一つの質問からどんどん話を広げることが、やはりネイティブの現地生同士の会話には敵わず、政治の専門用語・時事等の知識の差を感じました。楽しい時間を過ごせたと同時に自分の伸ばすべき部分も知ることが出来て、彼らの姿に学びながら濃い四日間を過ごせました。

留学生での参加者は、会場には私のほかにもう一人いるらしいという話を聞きましたが、私の学校からは初めてだったようです。プログラムを私に紹介して下さった Mr. Larr や誘ってくれた友人に感謝しています。



(左) 新聞の記事で取り上げ人気になった法案に議長からのサインがされる瞬間です。

(右) 議長へのインタビュー。インスタグラムで生配信され、忙しい議員は夜発行の Press Corp の新聞でチェックします。

最後に、ミシガン州は右手の手袋を平に向けたような形をしており、Mitten State という愛称もあります。州民のなかで、「ミシガンのどこから来たの?」という話題になると、各々が右手の平を見せて、自分の町のある場所を指さす光景が必ず見られます。両手が空いていないときは、「中指と人差し指の間あたりに住んでいるよ」といった説明になります。ちなみに私は、東寄りの手首あたりに住んでいます。



(左) 写真は 11 月頃に雑貨店で撮ったものです。

(右) ホストグランパ (ホストマザーの父) は以前、教会の牧師さんだったそうで、特別に案内して頂きました。

YMCA や教会といったコミュニティが、地域にも、歴史・政治・芸術にも、アメリカ人の生活に深く影響を与えていると感じます。

知れば知るほどこの町が、そしてミシガンが好きになっていきます。

田中